



若あゆ



はじめに子どもありき

校長 浅野 博一

お子様の御入学、御進級、誠にありがとうございます。私はこのたび、岸町小学校の校長を拝命いたしました浅野博一でございます。米原大司前校長の後任として、教職員の力を結集し、「はじめに子どもありき」の教育理念に立ち、全力で取り組んでまいります。

東京学芸大学の平野朝久先生がこのように語ったことがあります。「教師はあるべきことから出発してそれをどうやって子どもにわからせ、身につけさせ、行動させるかを考えようとする。まさに『はじめに内容ありき』である。子どもの事実もそのあるべきところから見下ろすことになる。したがって、しばしば『あれもできない、これもできない』と子どもを否定的に見ることになる。本来、教育は、常に、子どもの事実を出発点として、進むべき方向を考えなければならない。『はじめに子どもありき』なのである。」

ある特別支援学校の教員は、このように振り返ります。「言葉もなく、四肢も思うように動かない子どもたちに、一体、私に何ができるのだろうと思い悩んでいた時、できないことを並べて『はて』と考えたのです。自分の状態を100%ととらえていたのです。その子のできることを並べてみると『ほら、こんなにできるよ、こんなたくさんのサインを送っていたんだね』という視点が定まりました。その子の状態を100%ととらえるようになり、そこから出発できました。足りないところを補うのではなく、今の状態に付け足していくのです。そうするとその子の段階がよく見えてくるようになりました。」

私たち大人は、常に、子どもの側に立って、子どものよさを伸ばしていける存在でありたいものです。みんなが同じである必要はないのです。それぞれの子どものよさが輝き、自分らしさや個性を大切に、成長して行ってほしいものです。

子どもたちは成長していくにつれて、多感な時を迎え、時には他と比べて悩むこともあるかもしれません。しかし、私たち大人は、それぞれの子どものよさを認め、励まし、子どもの成長を助けていきたいものです。他の人と比べて、悩んだりすることは無いのです。哲人ルソーの言葉に『他人と比べると社会の奴隷となるが、きのうの自分との比較を忘れると習慣の奴隷となってしまう』とあります。子どもたちには、決してまわりに惑わされることなく、自分は自分なりに、他にはない自分自身を創り上げて行ってほしいと願っています。その子にはその子にしかできないものがあるはずで、人は皆同じではないのですから、生き方は人それぞれであり、うらやましがらる必要もありませんし、うらむ必要もありません。ただ、自分は『自分である』必要があるのです。



・・・子どもは“世界にひとつだけの花”“もともと特別なオンリーワン”なのです。決してほかの子どもと比べることなく、世界にひとつだけの花を大切にはぐくんでいきましょう。

すべての教職員が、お子様にとって太陽のような存在となり、誰一人取り残すことなく、子どもたちの明るい笑顔が輝くよう、一丸となって努力してまいります。

岸町小に着任し、日本から2,000Km離れたマリアナ海溝で産卵・孵化したニホンウナギや、歴史ある起志乃天神社・寅薬師堂、旧入間川が台地の谷間を削り、岸町の名は川岸に開けた町に由来すると伝わるなど、魅力ある地域を学びはじめ、私自身、岸町が大好きになりました。私自身が地域からたくさん学び、子どもたちに語り、故郷（ふるさと）を愛する子どもにも育ってほしいと願っています。



本年度も、心温かい御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。